市立幼稚園における幼児教育の在り方について(答申骨子)

幼児期の教育は重要である。

幼児期は、心情、意欲、態度、基本的生活習慣など、生涯にわたる人間形成の基礎が培われる極めて重要な時期である。したがって、幼児教育は、次代を担う子供たちが人間として心豊かにたくましく生きる力を身につけられるよう、幼児が本来持っている知的好奇心や探究心をもとに自分から進んで身近な環境に働きかけ、遊びながら体得する知識や技能に加え、思考力・判断力・表現力などの「確かな学力」や「豊かな人間性」、たくましく生きるための「健康・体力」から成る「生きる力」の基礎を育成する役割を担っている。

家庭・地域社会・幼稚園などの教育施設における教育が幼児期の育ちを支える。

家庭・地域社会・幼稚園などの教育施設における教育(以下、「幼稚園教育」という。) は、それぞれの有する教育機能をお互いに発揮し、バランスを保ちながら、幼児の自立に 向けて、幼児の健やかな成長を支える大切な役割を有している。

幼稚園教育は自発的な活動としての「遊び」を重要な学習として位置づけている。

幼児期は、運動機能が急速に発達し、いろいろなことをやってみようとする活動意欲も 高まる時期である。したがって、幼児が様々な対象と十分に関わり合えるようにすること が大切な時期といえる。

幼稚園教育は、自我が芽生え他者の存在を意識し、自己を抑制しようとする気持ちが生まれる幼児期の発達の特性に照らして、幼児の自発的な活動としての「遊び」を重要な学習として位置づけており、知識のみを体得することを先取りするような、いわゆる早期教育とは本質的に異なる。

幼稚園教育が目指しているものは、幼児が一つ一つの活動を効率よく進めるようになることではなく、幼児が自ら周囲に働きかけてその幼児なりに試行錯誤を繰り返し、自ら発達に必要なものを獲得しようとする意欲や生活を営む態度、豊かな心をはぐくむことである。

近年、地域社会や家庭の変化などが子供の育ちに影響を及ぼしている。

近年の幼児の育ちについては、基本的な生活習慣や態度が身に付いていない、他者とのかかわりが苦手である、自制心や耐性、規範意識が十分に育っていない、運動能力が低下している、直接体験での自然体験が乏しいなどの課題が指摘されている。

少子化、核家族化、都市化、情報化、国際化など社会の急激な変化を受けて人々の価値観や生活様式が多様化している一方で、社会の傾向としては、人間関係の希薄化、地域における地縁的なつながりの希薄化などにより、子育ての担い手である家庭と地域社会においては、その教育力の低下が指摘されている。特に、核家族化にともない、親から子への子育ての伝承や知恵の継承が少なくなってきて、子育ての悩みを相談したり、アドバイスを受けたりする機会が乏しいと思われる。幼児の育ちにはこうした現状と背景があり、家庭だけで幼児の発達を支えることが困難になってきている。

少子化が進行する中で、幼児の育つ環境が変化してきている。家庭での兄弟関係だけでなく、近所に子供が少なく、幼稚園にあがるまで友達を得る場所がない。児童公園に行っても子供が遊ぶ姿があまり見られない。子供同士が集団で遊びに熱中したり、互いに影響しあって活動する機会が減少している。実現や成功などのプラス体験、葛藤や挫折などのマイナス体験などの機会が減少している。また、幼児の生活空間に自然や広場などといっ

た遊び場が少なくなる一方、テレビゲームやインターネットなどの室内遊びが増えている。 親の子育て環境にも変化が生じている。地域の人と人とのつながりが希薄化し、お互いの 関心が薄くなってきて、親が地域の子供の育ちに関心を払わず、積極的にかかわることを しない。また、かかわる機会や場所がないため、かかわりたくても、かかわり方を知らな い傾向が見られる。こうした状況から、人と交流する機会が少ない親にとって、子育ての 大変さを共有したり、楽しさを共感したりする仲間がもちにくく子育ての孤立化が散見さ れる。

可及的速やかな市立幼稚園の統合が必要である。

園児数が少ないことは、園児一人一人に目が行き届き、きめ細やかな指導ができるというプラスの面がある反面、同じ年齢集団でのダイナミックな遊びが成立しにくくなることや、切磋琢磨ができにくいことが生じてくる。また、いろいろな友達と刺激し合いながら仲良く過ごせるようになるためにお互いの考えを折半することや、場合によってはあきらめること、仲間とのけんかやトラブルの調整方法や解決方法を身に付けるなどの育ち合いが難しくなる場合があり、幼児の発達にとって好ましくない状況が生じてきている。

市立幼稚園の小規模化は研修や運営にも、大きな影を落とすとともに、財政面でも、効率的運営の大きな阻害要因となっている

市の幼児人口の推移からも、この状況が好転することは考えられないことから、可及的 速やかな市立幼稚園の統合が必要である。

市立幼稚園の基本的役割は「すべての子育て家庭のための幼稚園」

統合によって適正規模となる市立幼稚園には、家庭や地域社会の教育力を補完、再生・向上させていく役割などが求められ、「すべての子育て家庭のための幼稚園」という新しい役割を付加して考えることが必要である。

総合的な「幼児教育センター」の機能を持った園とすることが必要である。

幼児教育充実のための具体的方策として3歳児保育を導入する。

3歳児で未就園児(保育園、幼稚園に就園していない)の集団教育への参加の必要性を重視し、その導入については、公立幼稚園の統合園全園に導入することが必要である。しかし、3歳児保育は市立幼稚園にとって未知の分野であり、1クラスの定員については、3歳児は20人が適正規模とあるが(後述)預けられた園児を安心して安全に育てるための経験や情報不足が否めないことなどを考慮し、当面、1クラス定員を15人として試験的に導入することが望ましい。また、試験的に3歳児保育を導入する園数については、3園が望ましい。

なお、試験的導入後は、その状況について検証し定期的に見直していくことが必要である。

私立幼稚園と市立幼稚園の費用負担の格差を是正していく必要がある。

私立幼稚園と市立幼稚園の費用負担の格差を是正していく必要がある。

3歳児保育にかかる保育料は、4・5歳児保育に比し経費増となることを考慮した 応分の負担が望ましい。

現在14園ある市立幼稚園を4園に統合することが適当である。

幼稚園の適正規模

3歳児 1~2クラス (20人~ 40人)

4歳児1~2クラス(25人~50人)5歳児1~2クラス(30人~60人)計3~6クラス(75人~150人)

適正配置

統合の原則(別掲)を定め、その規則に従い検討した結果、14園を4園に統合することが適当と考える。なお、園の絞込みは、各園が有する様々な容量を評点評価し、それらに地域バランスや通園距離などを加味して判断した。

なお、市立幼稚園の統合後も、少子化、核家族化あるいは共働き家庭の増加などを的確に 見極め、適正規模の幼稚園であるよう適宜見直しを行う必要がある。

統合の原則

統合に当たり施設の増築は考えない。

地域バランスを重視し、効率性を加味する。

統合後の園

西幼稚園

境野幼稚園

広沢幼稚園

相生幼稚園

試験的に3歳児保育を導入する園は、西幼稚園を除く3園とする。

平成20年4月1日を目途に統合する。

少子化による著しい幼児数の減少や、市の厳しい財政状況等を鑑みれば、可及的速やかな実施が望まれるので、その準備期間を考慮するとしても、平成20年4月1日を目途に実施することとし、幼稚園教育に支障を来たさぬよう保護者と話し合いながら進めていくことが必要である。また、実施時期については、入園予定者へ配慮し統合計画決定後の早い時期に周知することが必要である。

幼保一元化の流れの中では、さらなる幼稚園と保育園の連携が必要である。

お互いがこれまでに培ってきた幼児教育のノウハウをオープンにするなど、これまで 以上に幼稚園と保育園の連携が必要である。

幼保一元化の必要性は薄いと考える。

桐生市は保育園も幼稚園も十分あり、待機児の急増という問題はなく、市立幼稚園に おける幼保一元化の必要性は薄いと考える。

終了後保育の実施を要望するが、預かり保育は不必要と考える。

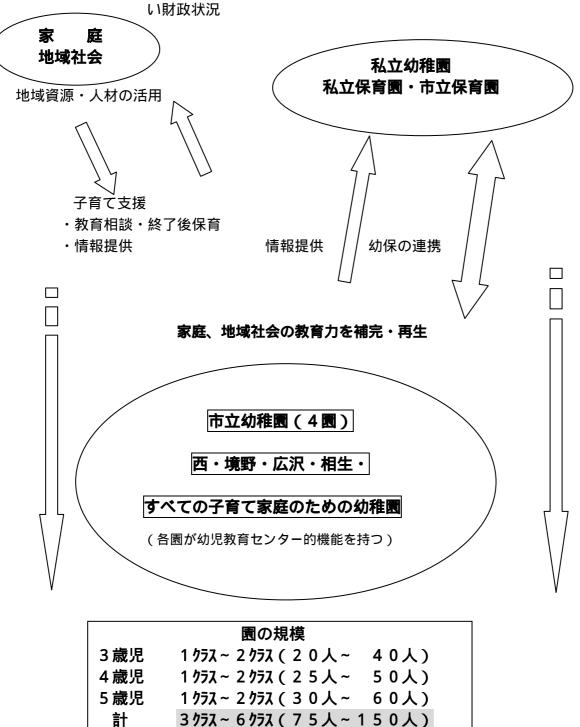
開かれた幼稚園の推進、子育て支援等に対応するために、終了後保育()の実施を要望する。なお、預かり保育(教育課程に係る教育時間終了後に希望する者を対象に行う教育活動で、恒常的に行われる)については、必要はないと考える。

終了後保育

園児の降園後、保護者の事情等により家庭が留守になるため保護が受けられない状況にある場合に限り、教育活動として実施する。(保護者の事情等とは、兄姉の学校行事への参加、健康診断、PTAの行事や会議、冠婚葬祭、家族の介護や通院等、園が認める正規な理由であること。)

少子化時代における市立幼稚園

様々な社会的変化 女性の社会進出や就労形態の多様化による教育・保育ニーズの多様化、 少子化による幼児数の減少、家庭や地域社会の教育力の低下、市の厳し い財政状況



幼児の健全な育ち

評点評価

平成18年5月1日現在

園 名	保育室数	評点	園舎面積 (㎡)	評点	園庭面積 (㎡)	評点	改築年度	評点	平成 18 年度 就園園児数 (人)	評点	設置年月
東	4	8	681	4	928	6	昭 46	2	14	3	昭 34.4
西	5	13	1,093	14	730	4	昭 55	12	38	11	明 19.8
南	3	4	799	8	1,037	7	平 10	14	19	5	昭 5.1
北	4	8	748	7	600	3	昭 47	4	27	9	昭 40.4
昭 和	3	4	669	2	1,828	13	昭 50	8	14	3	昭 40.4
境 野	6	14	929	10	1,125	9	昭 46	2	39	12	昭 29.4
広 沢	5	13	978	12	1,320	11	昭 56	13	60	14	昭 31.1
梅田南	2	1	470	1	420	1	昭 53	10	13	1	昭 34.10
相生	5	13	924	9	1,052	8	昭 52	9	37	10	昭 42.1
川内南	4	8	678	3	800	5	昭 48	6	24	7	昭 39.9
桜 木	5	13	934	11	1,913	14	昭 47	4	18	4	昭 44.4
菱	3	4	693	5	544	2	昭 49	7	23	6	昭 46.4
天 沼	4	8	729	6	1,655	12	昭 48	6	48	13	昭 49.4
神明	5	13	979	13	1,247	10	昭 54	11	26	8	昭 54.1
合 計	58										

評点順位表

順位	園名	保育室数		園舎面積		園庭面積		改築年度		平成18年度 就園園児数		合計	平均
		評点	順位	評点	順位	評点	順位	評点	順位	評点	順位		
1位	広沢	13	2位	12	3位	11	4位	13	2位	14	1位	63	12.6
2位	神明	13	2位	13	2位	10	5位	11	4位	8	7位	55	11.0
3位	西	13	2位	14	1位	4	11位	12	3位	11	4位	54	10.8
4位	相生	13	2位	9	6位	8	7位	9	6位	10	5位	49	9.8
5位	境野	14	1位	10	5位	9	6位	2	13位	12	3位	47	9.4
6位	桜木	13	2位	11	4位	14	1位	4	11位	4	11位	46	9.2
7位	天沼	8	7位	6	9位	12	3位	6	9位	13	2位	45	9.0
8位	南	4	11位	8	7位	7	8位	14	1位	5	10位	38	7.6
9位	北	8	7位	7	8位	3	12位	4	11位	9	6位	31	6.2
10位	昭和	4	11位	2	13位	13	2位	8	7位	3	12位	30	6.0
11位	川内南	8	7位	3	12位	5	10位	6	9位	7	8位	29	5.8
12位	菱	4	11位	5	10位	2	13位	7	8位	6	9位	24	4.8
13位	東	8	7位	4	11位	6	9位	2	13位	3	12位	23	4.6
14位	梅田南	1	14位	1	14位	1	14位	10	5位	1	14位	14	2.8

^{「15」}から各項目の順位を引いたものを評点とした。

最長通園距離

項目	統	合後の園 : 4 園				
園 名	距離	最長地点				
西幼稚園	18.2 km	梅田町5丁目-574				
境野幼稚園	2.3 km	境野町7丁目 1862-4				
相生幼稚園	10.2 km	川内町5丁目 2795-3				
広沢幼稚園	3.6 km	広沢町7丁目-5407				

隣接園までの距離

項目園名	距離	隣接園	距離	隣接園
西幼稚園	2 . 4 k m	相生幼稚園	4 . 5 K m	境野幼稚園
境野幼稚園	3 . 3 K m	広沢幼稚園	4 . 5 K m	西幼稚園
相生幼稚園	2.4 km	西幼稚園	4.6 km	広沢幼稚園
広沢幼稚園	3 . 3 K m	境野幼稚園	4.6 km	相生幼稚園

